

# 赤潮・貧酸素情報（2）

令和元年7月18日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター  
豊前海研究所長

7月17日に調査を行った結果、蓑島地先で有害プランクトンのカレニア・ミキモトイの赤潮が確認されました。

## <プランクトンの状況>

- 蓑島地先で、カレニア・ミキモトイ（海水1ccあたり2,700細胞）の赤潮による着色が認められました。
- 本種は、海水1ccあたり数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- また、増殖初期は中層で増殖する性質を持っているので、海面からの観察では着色が判別しにくい種類です。
- なお、本種は、局所的に密集することが多いため、船がその海域を通過した際、活け間内で魚介類がへい死することもあります。
- このため、少なくとも現在の発生海域付近ではスカッパを閉めて航行するなど、注意して帰港してください。また、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。

## <貧酸素の状況>

- 現在、貧酸素（酸素濃度30%以下）は発生しておらず、底層などで酸素濃度が50%以下になっている海域も見られません。

## <今後の状況>

- 曇天でも増殖することがあるため、赤潮の継続や拡大、その後、貧酸素の発生の恐れがあります。
- 研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報に十分ご注意ください。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、後川)までご連絡下さい。

### 7/17調査結果

	採水層 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	溶存酸素 (%)	カニア・ミキトイ (細胞数/海水1ml)
蓑島カキ漁場	0	26.5	31.99	136.52	590
	5	25.2	32.26	103.67	2,700
	B - 1	24.6	32.59	82.21	-

